

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。
記

令和 8 年度病害虫発生予報第 5 号（8 月）

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和 8 年度病害虫発生予報第 5 号（8 月）

令和 8 年 8 月 3 日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	県全域	7 月下旬の葉いもちの発生量は やや少ない	—
	紋枯病	やや少ない	県全域	7 月下旬の発生量はやや少ない 8 月の降水量はほぼ平年並	— ±
	白葉枯病	平年並	県全域	7 月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 8 月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	やや多い	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数はやや多い	± +
	セジロウンカ	平年並	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	トビイロウンカ	平年並	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	斑点米 カメムシ類	やや多い	県全域	7月下旬の本田での発生量はやや少ない 7月下旬の水田畦畔でのミナミアオカメムシ及びイネカメムシの発生量はやや多い 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数は多い	－ ＋ ＋
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は少ない 一部地域の予察灯における誘殺数は多い	－ ＋
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	－ ±
	コブノメイガ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋
	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 8月の気温は高い	＋ ＋

・防除対策

〔イネ・ニカメイガ〕

弥富市に設置した予察灯では、7月中旬頃から誘殺数が増加しています。今後の発生状況に注意してください。防除対策は7月3日発表の「ニカメイガ情報第1号（水稻）」を参照してください。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

畦畔雑草のすくい取り調査において、斑点米産出能力の高いミナミアオカメムシ及びイネカメムシがやや多い状況です。また予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数は、多い～平年並の状況であり、注意が必要です。本日発表の「斑点米カメムシ類情報第3号」を参照してください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

7月15日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ、野菜類、花き類）」を参照してください。

〔ダイズ・オオタバコガ〕

7月3日発表の「令和8年度病虫害発生予察注意報第4号（オオタバコガ）」を参照してください。

・留意事項

トビイロウンカについて、7月下旬までの本田調査及び予察灯において発生は確認されていませんが、本県に飛来している可能性があります。ほ場に入って株元をよく観察するなど、発生状況に注意してください。

ダイズについて、県内に設置したトラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数は

やや多い状況です。7月3日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第5号（シロイチモジヨトウ）」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量はやや少ない 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	－ ＋
ナシ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋
モモ	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 7月下旬の被害葉率は平年並	－ ±
カキ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	カキノヘタムシガ	やや少ない	県全域	第1世代幼虫による被害果率はやや少ない	－
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	7月下旬のヒノキ球果量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±

・防除対策

〔ナシ・ハダニ類〕

多発しているほ場が確認されています。コロマイト水和剤などで防除しましょう。

〔ナシ・ナシヒメシンクイ〕

ディアナWDGやエクシレルSEなどで防除しましょう。

・留意事項

クビアカツヤカミキリの生息地域が拡大しており、各地で被害が発生しています。6～8月は成虫の活動が盛んな時期であり、モモ園でクビアカツヤカミキリの産卵が確認されています。果樹園（モモ、ウメ）で成虫を確認したら、直ちに捕殺し、5月18日

発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考に防除してください。

果樹カメムシ類については、本日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。

ブドウのべと病の発生が多くなっています。収穫後も落葉を防ぐため、ICボルドー66Dなどで防除してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 8月の気温は高い	＋ ＋
	シロイチモジヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
イチゴ	炭疽病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔キャベツ・オオタバコガ〕

7月3日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第4号（オオタバコガ）」を参照してください。

〔キャベツ・シロイチモジヨトウ〕

7月3日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第5号（シロイチモジヨトウ）」を参照してください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

フェロモントラップの誘殺数は平年並ですが、本虫の増殖に好適な気象条件が続くことが予想されます。フェロモントラップデータ（あいち病害虫情報 調査データ）や、ほ場の観察等により、今後の発生状況に注意し幼虫の発生を確認したら防除しましょう。

・留意事項

イチゴうどんこ病は育苗ほでの発生がやや多い状況です。本ほに持ち込まないようにベルコートフロアブルやプロパティフロアブルなどで防除しましょう。炭疽病は平年並の発生ですが多発すると抑制が難しいため予防的に防除しましょう。発病株とその周辺株はすみやかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。親株で発生があった場合はランナーと子株も処分しましょう。ハダニ類の発生は平年並ですが、多発生ほ場が散見されます。今後は増殖に好適な気象条件が見込まれるため、ハダニ類の増加に注意しましょう。育苗ほでは、気門封鎖剤などを組み合わせて防除し、定植直前に炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤（ナミハダニ））やモベントフロアブルによる灌注処理を行い、本ほにハダニ類を持ち込まないように防除を徹底しましょう。

トマトはコナジラミ類の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、施設開口部に防虫ネット

（目合 0.4mm 以下）を設置し、コナジラミ類の発生初期に薬剤で防除しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	オオタバコガ	多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は多い 8月の気温は高い	± + +
	ハダニ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の気温は高い	－ +

・防除対策

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

7月3日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第4号（オオタバコガ）」を参照してください。

・留意事項

キク白さび病の発生が山間部で多い状況です。アンビルフロアブルやアミスター20フロアブルなどで防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：

<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月30日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。

3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%